

問1 16世紀フランスの思想家であり、宗教戦争による混乱と殺戮を目の当たりにする中で、独善的な独断や偏見を排し、自己の理性の限界を自覚することを説いた人物は誰か。彼は「私は何を知っているか」（ク・セ・ジュ）という問いかけを通じて、謙虚に自己吟味を行う懐疑主義の立場を示し、のちのモラリストの先駆者となった。（2017年 全国公立入試 類似）

1. ラ・ブリュイエール 2. モンテーニュ 3. パスカル 4. ラ・ロシュフコー

問2 著書『自由論』において、他者に実害を及ぼす恐れのある行為のみが規制の対象となるべきであり、自己の安全や道徳的善行の強制を理由に個人の自由を制限することは許されないと主張した、19世紀イギリスの功利主義思想家は誰か。（2010年 全国公立入試 類似）

1. ハーバート・スペンサー 2. ジョン・スチュアート・ミル 3. トーマス・ヒル・グリーン 4. トーマス・ロバート・マルサス

問3 キリスト教的な道徳を弱者の怨恨（ルサンチマン）に基づく「奴隷道徳」であると批判し、伝統的な価値観の崩壊（ニヒリズム）を乗り越えるために、自らの生を能動的に肯定する「超人」の思想を説いたドイツの思想家は誰か。（2019年 全国公立入試 類似）

1. サルトル 2. ハイデガー 3. ニーチェ 4. ヤスパース

問4 デカルトの物心二元論やスピノザの一元論に対し、世界の根源的な実体は無限に存在する「モノド（単子）」であるとし、それらは互いに影響を及ぼし合わないが、神によってあらかじめ調和が保たれるように設定されているという「予定調和説」を唱えたドイツの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. スピノザ 2. マルブランシュ 3. デカルト 4. ライプニッツ

問5 国家が成立する前の自然状態を、各人が自己保存のために互いに争い合う混乱した状況であると捉え、これを避けるために人々が契約を結んで自然権を強力な主権者に譲渡することで国家が設立されると説いた、著書『リヴァイアサン』で知られるイギリスの思想家は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. ルソー 2. ホブズ 3. ロック 4. スピノザ

問6 歴史の進歩や普遍的な社会正義を掲げて未来の理想社会を設計しようとする立場に対し、そうした全体的なシステムを批判し、目の前で苦しんでいる具体的な他者からの呼びかけに直接応答することに倫理の根源を見出す思想がある。このような、自己の枠組みを超えて迫ってくる「他者の顔」に対する無限の責任を説き、近代の主體的自己中心性を批判した現代の哲学者は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. フッサール 2. ハイデガー 3. レヴィナス 4. ドゥルーズ

問7 学校で学んだ従来の学問に確実な基礎がないと疑問を抱いたフランスの哲学者が、学校を去って旅に出て、様々な身分の人々との交わりや経験を通じて真理を探究しようとした。この探究の対象を、彼は著書『方法序説』の中で何と表現したか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 精神と身体の二元論 2. 世間という大きな書物 3. 明晰かつ判明な観念 4. 我思う、ゆえに我あり

問8 ルネサンス期のイタリアにおいて、政治を宗教や道徳から切り離し、人間の現実のありようを踏まえた客観的な統治の技術として捉えた思想家は誰か。彼は、国家の維持と秩序のために、君主はライオンのような強さと狐のような賢さを兼ね備えて統治を行うべきであると主張した。（2019年 全国公立入試 類似）

1. エラスムス 2. ペトラルカ 3. マキャヴェリ 4. モンテーニュ

問9 イギリスの思想家ロックが1689年に公刊し、政府が市民の信託に反して権力を濫用し自然権を侵害した場合には、市民は政府に対して抵抗し新たな政府を設立する権利を持つという思想を展開して、のちのアメリカ独立革命などに大きな影響を与えた主著は何か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 市民政府二論 2. 実践理性批判 3. 代議制統治論 4. 社会契約論